

国土交通大臣
斎藤 鉄夫 様

米子・境港間の高規格道路の 早期事業化に関する要望書

令和4年7月

鳥取県知事 平井伸治
米子市長 伊木隆司
境港市長 伊達憲太郎
日吉津村長 中田達彦

米子・境港間の高規格幹線道路の早期事業化について

日本海側の国際交流拠点として進化を遂げつつある米子・境港地域が、災害に強く、活力ある安全・安心な社会へ更なる発展をし、地方創生を推進していくためには、その基軸となる中国横断自動車道岡山米子線を終点の境港までつなげることが必要不可欠である。

令和2年度に国と山陰両県の関係自治体で開催された「中海・宍道湖圏域道路整備勉強会」では、中海と宍道湖をつなげる8の字状に高規格な道路を早急に整備することが必要であると整理され、米子・境港間については、港湾・空港へのアクセス強化を目的とし、規格の高い道路の計画の具体化に向けた検討を進めることとなった。

さらに、令和3年度に地元自治体に学識経験者、商工・観光団体を加えた地元懇談会では、地域の全世帯及び道路利用者を対象としたアンケートを行い、「当該圏域が発展し、地域住民が思い描く当該地域の将来像実現のためには、米子・境港間を結ぶ高規格道路が不可欠であり、一日も早い整備が必要である。」と地元意見がとりまとめられた。

また、島根原子力発電所の事故等の避難では、島根県からの避難者も弓ヶ浜半島を通過する計画となっている。島根・鳥取両県民が円滑な避難を行うためには、米子・境港間の高規格道路の早期整備が必要である。

よって、地元自治体が一致結束し、米子・境港間を結ぶ高規格道路について、以下のとおり要望する。

- 事業が凍結されている中国横断自動車道岡山米子線（米子IC～米子北IC間）の凍結を解除すること。
- 中国横断自動車道岡山米子線（米子IC～境港間）について、早期事業化に向け、規格の高い道路の計画の具体化に向けた検討を促進すること。

【要望の背景】

中国横断自動車道岡山米子線は、昭和41年7月に岡山市から境港市まで予定路線の指定を受け、平成9年3月に岡山総社ICから米子ICまで開通したが、米子IC～米子北IC間は平成18年2月に「当面着工しない」として事業が凍結された。

しかしながら、その後の米子・境港地域をとりまく社会情勢は大きく変化し、米子・境港間を結ぶ高規格幹線道路の必要性が強く求められている。

- 「重要港湾」に指定された境港では、国際定期コンテナ航路の就航などによりコンテナ取扱量が平成18年に比べ令和2年は約1.5倍に増加し、国際フェリー航路の就航もあり、北東アジアゲートウェイとして発展し続けている。また、平成28年には国際物流ターミナルが完成し、令和2年には貨客船ターミナルも完成するなど、境港の機能強化が進んでいる。

○境港市の水木しげるロードは年間約200万人の観光客が訪れる山陰を代表する観光地となつた。この賑わいを将来に亘って継続させるため、平成30年にリニューアルしたところ、年間で300万人を超えるなど更なる賑わいをみせており、一層の交流人口の増加を図るために利便性向上が求められている。

○現在は新型コロナウィルス感染症拡大の影響を大きく受けているが、令和元年度まではクルーズ船の寄港回数は増加傾向であり、その積極的な誘致活動が評価され、境港は「ポート・オブ・ザ・イヤー2017」に選定された。また、米子鬼太郎空港では平成29年度には「訪日誘客支援空港（拡大支援型）」の認定を受けるなど、地域が一体となって観光振興に取り組んでいる。その結果、外国人観光客が年々増加し平成18年に比べ令和元年は約5.6倍と大きく増加している。コロナ収束後は観光などの落ち込んだ地域経済を一刻も早くV字回復させることが求められている。

○平成18年から令和元年までの間に鳥取県西部地域に誘致した企業32件のうち、約7割を超える企業が山陰道以北に立地し、産業活動における弓ヶ浜半島のニーズが高まっている。また、境漁港高度衛生管理型漁港・市場が令和元年6月にオープンし、境港で水揚げされた水産物を高品質で出荷することが可能となったことから、高規格道路の整備による販路拡大に期待が高まっている。

○平成23年に発生した東日本大震災では、津波やこれまで経験したことのない原子力発電所の被災による大きな被害が発生したことから、津波ハザードマップや島根原子力発電所の被災を想定した鳥取県広域住民避難計画を策定しており、大規模災害時の避難路確保の重要性が高まっている。さらに、「中国電力株式会社島根原子力発電所2号炉の再稼働に向けた政府の方針について（回答）」の中で円滑な避難を行うため当該道路の早期整備を申し入れている。

○発生が危惧されている南海トラフ巨大地震等、太平洋側での大規模災害発生時には、境港は日本海側の救援・支援物資の陸揚げ拠点となる重要な港であり、米子・境港間の高規格道路の必要性が高まっている。

○このような背景から、令和2年度には中海・宍道湖圏域における各地域の発展を目指し、圏域にとって真に必要な将来の道路ネットワークのあり方について、あらゆる角度から幅広い検討を行うため「中海・宍道湖圏域道路整備勉強会」が開催され、高規格な道路の必要性が

認められたところであり、米子・境港間を結ぶ高規格道路については、港湾・空港へのアクセス強化を目的とし、規格の高い道路の計画の具体化に向けた検討を進めていくこととなっている。

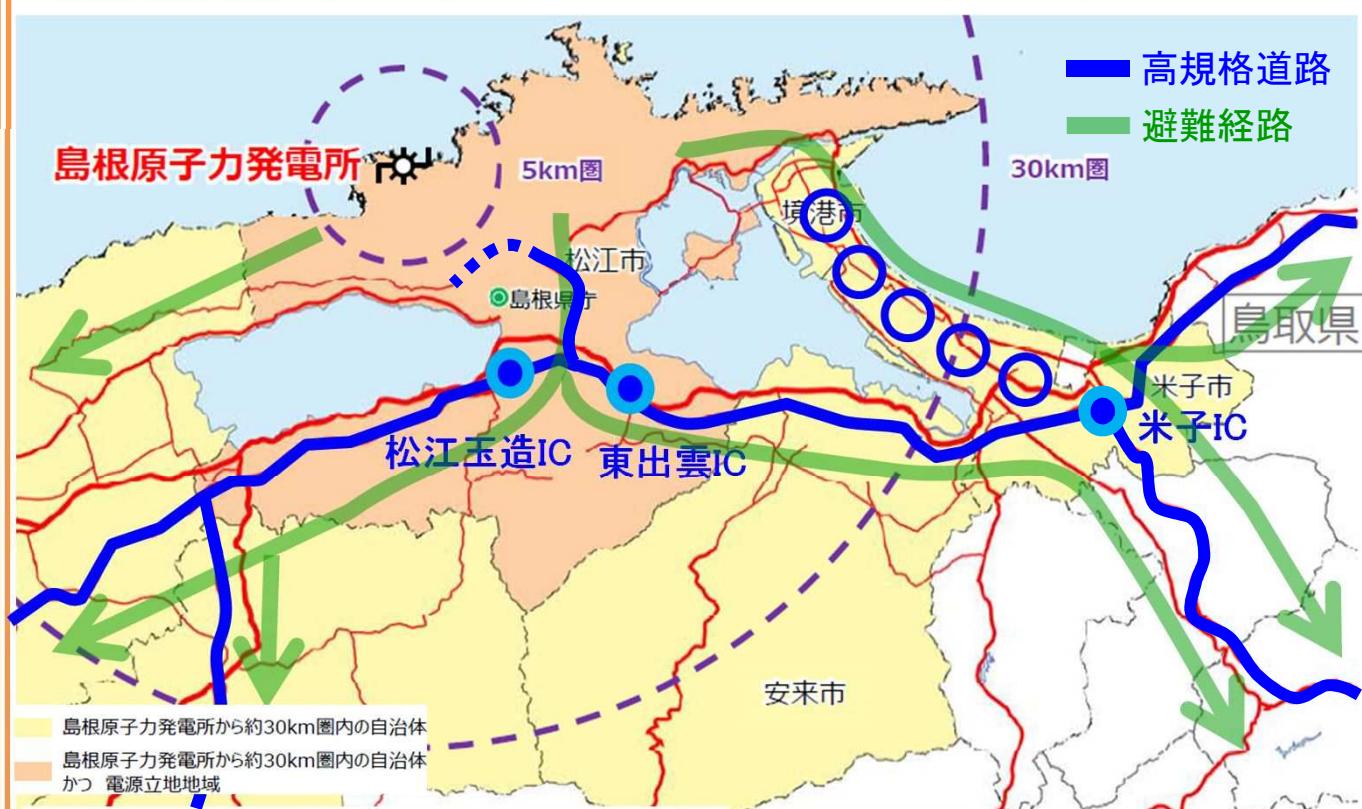
○令和3年度に米子・境港間の関係自治体と学識経験者、商工・観光団体とで開催した「米子・境港間の高規格道路地元懇談会」では、地域の全世帯と道路利用者を対象とした住民アンケートも行い、道路の現状と課題について議論を行った結果、『当該圏域が発展し、地域住民が思い描く当該地域の将来像実現のためには米子・境港間における高規格道路が不可欠であり、一日も早い整備が必要である。』と地域の声としてとりまとめられた。

令和4年7月13日

鳥取県知事 平井 伸治
米子市長 伊木 隆司
境港市長 伊達 憲太郎
日吉津村長 中田 達彦

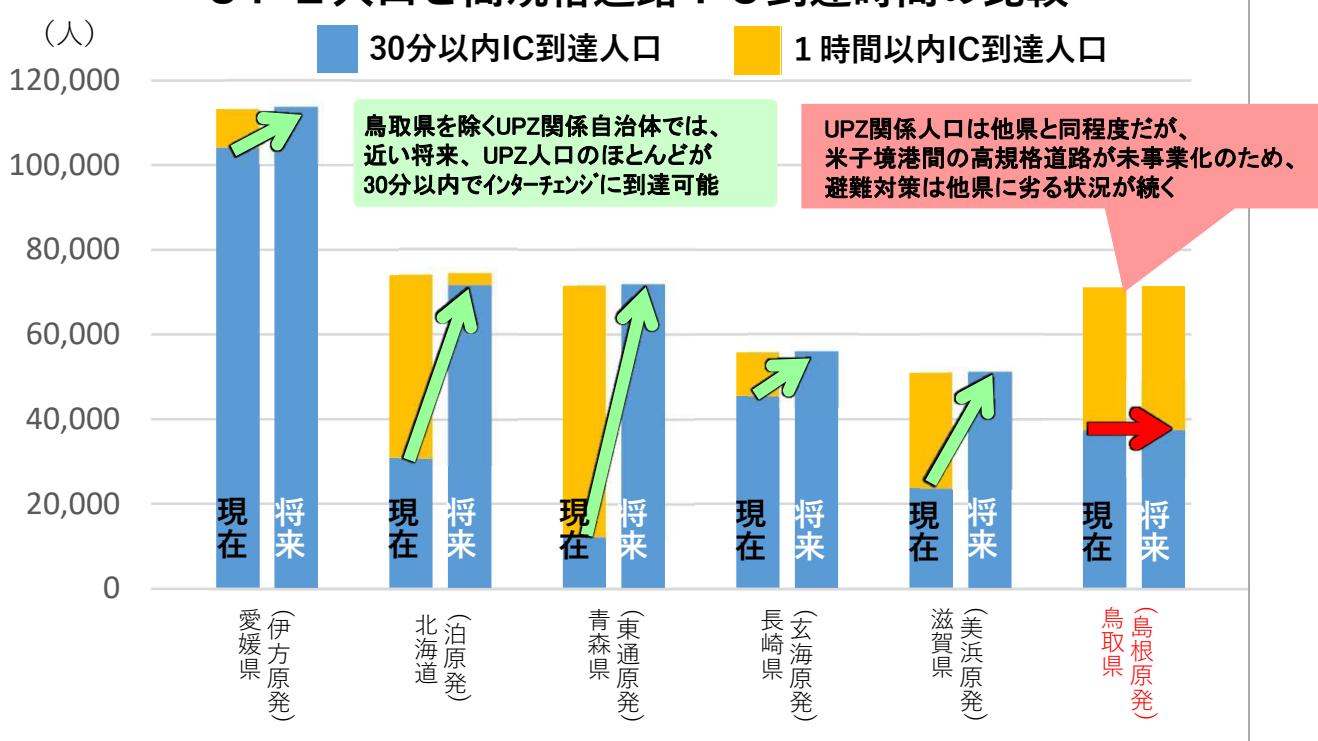
【原子力発電所の避難対策の強化】 米子境港間の高規格道路の早期事業化

要望



信頼性の高い避難路(高規格道路)が未整備!
UPZ関係自治体の中で唯一鳥取県だけが、
高規格道路整備による円滑な避難が困難!!

UPZ人口と高規格道路IC到達時間の比較



整備効果：物流・産業への期待

北東アジアゲートウェイとしての境港の躍進！

【背景】

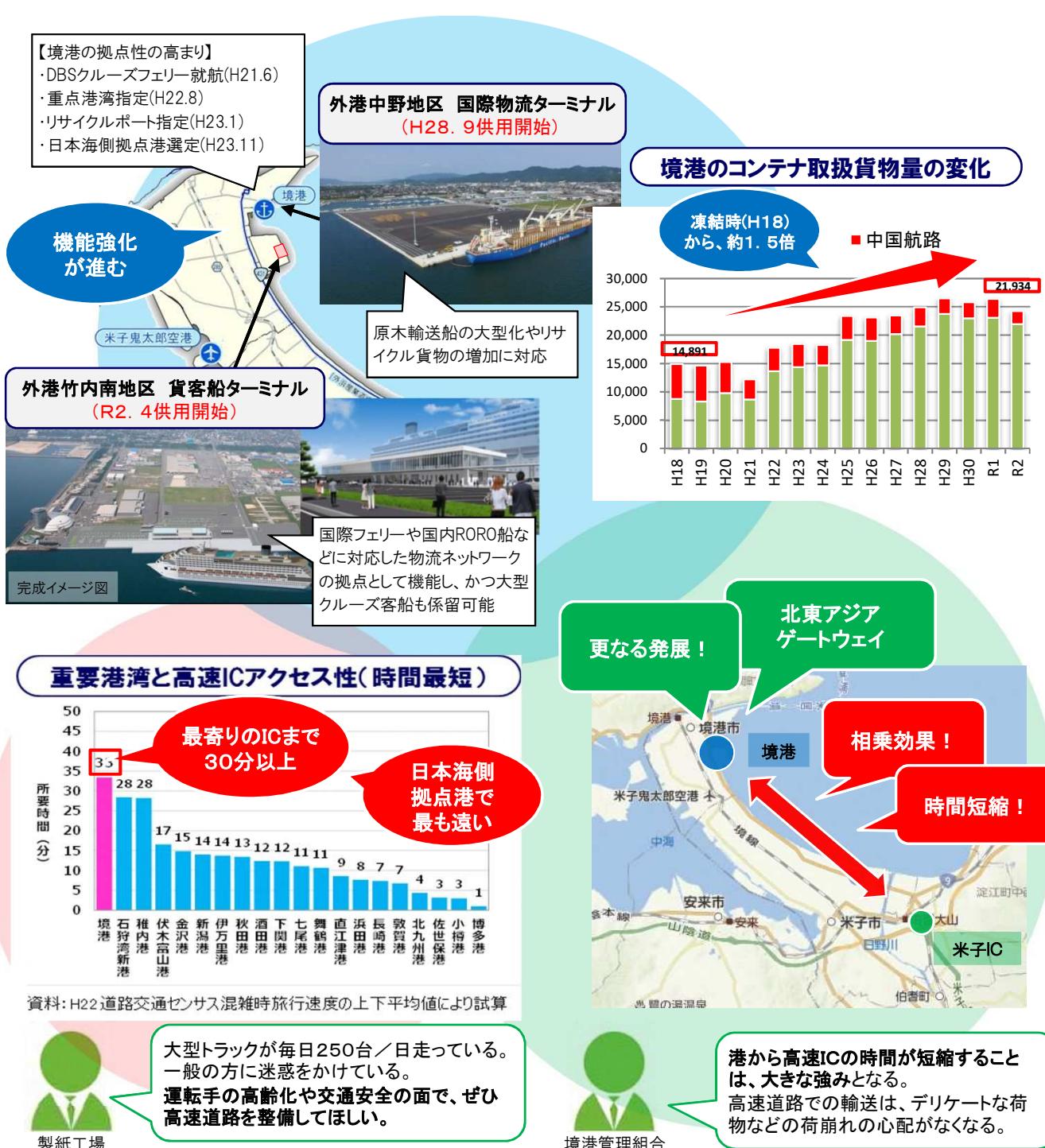
○北東アジアゲートウェイとして機能強化が進む「境港」は、平成18年に比ベコンテナ取扱貨物量も約1.8倍に増加しており、国際物流ターミナルや貨客船ターミナルの整備が進められ、日本海側の貿易拠点として発展している。

【課題】

○「境港」から高速道路ICまでの所要時間は30分を超えており、日本海側拠点港の中で最も遠く、国道431号も渋滞することから、港湾の機能が十分に発揮できない。

【効果】

○高規格幹線道路の整備により、港湾機能の強化との相乗効果による、北東アジアゲートウェイとしての「境港」の更なる発展が期待される。



整備効果：観光への期待

周遊観光範囲を拡大し、県下全域の観光振興を活性化！

【背景】

○大型クルーズ船の寄港や国際航空定期便・チャーター便の就航により、境港市から入国する外国人観光客は急増している。

○平成28年に山陰DMOが設立され、外国人宿泊者数40万人を目標に活動している。

【課題】

○外国人観光客は増加しているが、移動時間の制約により、鳥取方面（鳥取県東部・中部）へのツアーバスは伸び悩みである。

○高速道路が整備されていないことによる移動時間のロスが、周遊観光範囲を制約している。

【効果】

○高速道路ネットワーク整備により、周遊観光範囲が拡大され、鳥取県下全域にインバウンド観光の効果を波及させ、観光振興の活性化が期待される。



今後の進め方が決定した！

令和2年度 中海・宍道湖圏域道路整備勉強会

委員:国土交通省(中国地方整備局、倉吉河川国道事務所、松江国道事務所)、鳥取県、島根県、米子市、境港市、日吉津村、松江市、出雲市、安来市、西日本高速道路株式会社



中海・宍道湖圏域の将来像を実現させるためには、中海と宍道湖をつなげる8の字状に、4つの機能軸強化となる、高規格な道路を早急に整備することが必要である。

今後の進め方

機能軸③については、空港・港湾へのアクセス強化を目的とし、規格の高い道路の計画の具体化に向けた検討を関係自治体と連携して実施。

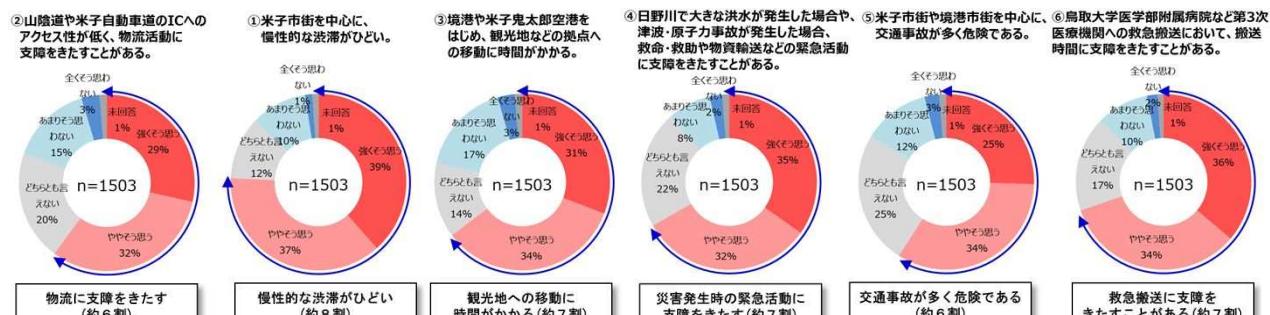
地元意見をとりまとめた！

令和3年度 米子・境港間の高規格道路地元懇談会

委員:学識経験者、商工・観光団体、鳥取県、米子市、境港市、日吉津村、境港管理組合

※行政に加え学識経験者、商工・観光団体で議論し、地域全世帯及び道路利用者を対象とした住民アンケートを踏まえ、地元が一丸となって『地元意見』をとりまとめた。

住民アンケート結果(現状)



課題と期待

物流・産業	観光	災害	暮らし
<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none">・境港は圏域内外の物流に加え外貿コンテナ取引量も増加。北東アジアとのゲートウェイとして港湾機能の拡充を実施。・全国上位の水揚げを誇る境港・境港の高速ICアクセスは日本海側重点港湾ワースト1位 <p>[期待]</p> <ul style="list-style-type: none">➡ 地域産業のポテンシャルを活かす円滑で高規格道路網へのアクセスのよい規格の高い道路が必要	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none">・コロナ禍により、観光産業は危機的状況。・クルーズ船寄港の増加によりインバウンドなど観光需要は拡大しているが、移動時間の短い観光地間の周遊にとどまっている。 <p>[期待]</p> <ul style="list-style-type: none">➡ 圏域での周遊観光促進に寄与する定時性の高い広域ネットワークが必要	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none">・浸水想定エリア、津波想定エリアを緊急輸送道路が通過している。・原子力の避難路に設定されている。 <p>[期待]</p> <ul style="list-style-type: none">➡ 激甚化・頻発化する災害時においても機能する強靭なネットワークの確保が必要	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none">・高齢化により第3次医療機関への搬送件数が増加。時間帯等により搬送時間のバラツキが大きい。・事故件数が鳥取県内の4割を占め、死傷事故率が全国平均を上回る。・境港を発着する貨物車両と生活車両が混在する。 <p>[期待]</p> <ul style="list-style-type: none">➡ 市街地での生活車両と貨物車両の混在を緩和し、迅速で安定した救急搬送ができ、交通事故の少ない安全・安心で快適な道路が必要
米子市 : 圏域内の内外にわたる広域交流都市 境港市 : 港の特徴を活かした広域交流都市 日吉津村 : 住宅・工業・沿道型商業拠点	○住民アンケート結果 (求める機能) 物流・産業や観光に寄与し、災害時にも通行できる安全・安心な道路を求める (約8割)	地域の将来像	「地域の将来像」を実現し更なる発展をするとともに、「地域の課題」を解決するうえで、広域的な交通流動の円滑化、災害時の交通確保等に資する高規格道路整備が必要である。

地域の将来像